

Extension Lectures 医療講座

すいぞう 膵臓がん

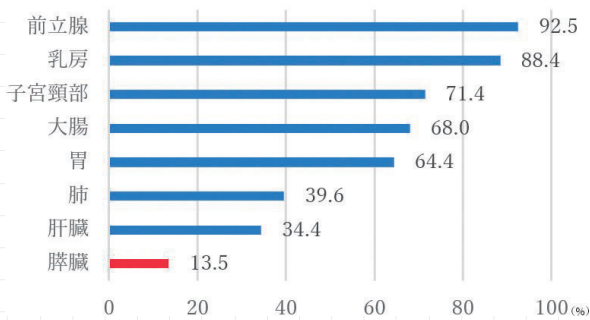
早期発見のカギは
健康診断

～がんを早くみつけるために～

膵臓(すいぞう)がんは、膵臓にできる悪性腫瘍で、多くは膵管の細胞から発生します。年間4.7万人に発見され、死亡者数は肺と大腸に続き3番目に多いです。

治療成績を比較した5年生存率では、全がん種の中で最も悪い結果でした(下図)。また、Stage Iで発見された割合はわずか6%で、早期発見が難しい病気でもあります。

【主ながんの5年生存率】



※厚生労働省「2018年全国がん登録5年生存率報告」の結果より作図

症状とリスク因子

では、膵臓がんはいつどのように発見されるのでしょうか。

・背中やみぞおちの痛み ・体重減少 ・黄疸 など

の症状をきっかけに発見されることが多いです。しかし、**初期段階ではまったく症状がない**ことが多く、一方で、症状があったときには、すでに病気が広がった状態であることが少なくありません。

膵臓がんのリスク因子をあげると、家族歴・喫煙・飲酒・肥満・慢性膵炎・膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN)・糖尿病などです。特に糖尿病は、発症して1年以内に膵臓がんが見つかることが多く、急激な血糖悪化には注意が必要です。



膵臓がんのリスク因子

家族性膵がん	散発性膵がん	遺伝性膵炎
糖尿病	肥満	慢性膵炎
IPMN 膵管内乳頭粘液性腫瘍	喫煙	アルコール

解説 消化器外科
小川 洋 医師

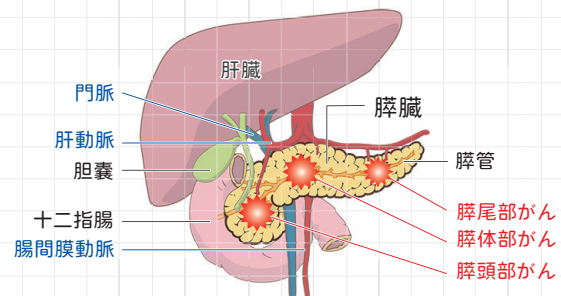


もしも、膵臓がんと診断されたら？



部位と転移の状況に応じて、**手術、抗がん剤、放射線治療**が選択されます。年齢や基礎疾患も、治療の選択に大きな影響を与えます。近年では、**手術に術前・術後の抗がん剤や放射線治療を組み合わせた集学的治療が行われています**。以前よりも長期生存する方が増えてきましたが、その成績は十分とはいえません。

膵臓のまわりには、重要な血管(肝動脈・腸間膜動脈・門脈)が取り巻いており、手術をしてもがんが残りやすい特徴があります。さらに、がん細胞自体の悪性度が極めて高く、薬が届かないようブロックしてしまう線維化を起こしやすいため、抗がん剤など薬物療法が効きにくいのです。



早期発見のために——

以上のことから、膵臓がんは、

- ① 症状ができる前 ② 広がる前 ③ 大きくなる前

の早期に発見し、診断をつけることが望めます。**早期発見の重要性が、非常に高い病気といえます**。まずは、健康診断の腹部超音波検査で膵管拡張などの間接所見を見つけることが大事であり、さらにCT、MRIや内視鏡的胆膵管造影法(ERCP)などの検査で調べます。

体調が悪化したとき、特にリスク因子をもつ場合や健康診断で指摘があった場合は、すみやかに専門医による診察を受けられることをお勧めします。当院でも診察を行っておりますので、外来へお問合せください。また、健康診断は佐々健康管理クリニックでも承っております。

外来予約



消化器外科HP



佐々
健康管理
クリニック

ONE FOR ALL 西東京
田無町4-15-12

